

第27回北勢線の魅力を探る 「秋の東員 神仏の恵みを訪ねて」

開催日：2016年10月23日（日）

参加者：95人

協力：穴太自治会長、薬師堂、多井寺、福泉寺、中村誠さん、遍崇寺、
長深自治会長、瑞応寺、大雲寺

穴太駅～神田神社～穴太薬師堂～途中橋

今回の起点となった穴太駅は、線路向かいのホームのみの駅から平成17年(2005)に新設。駅の南に「穴太地区土地改良区圃場整備事業竣工記念碑」(昭和56=1981年建立)がある。揮毫は木村俊夫。次に神田神社へ。多くの石灯籠のうち元治紀元甲年(1864)8月建立のものが最古の石造物である。拝殿は嘉永3年(1850)2月に再建され、平成26年(2014)10月に耐震工事が施された。本殿は明治27年(1894)9月26日の再建。境内には戦死者の大きな慰霊碑(昭和43=1968年建立)がある。



薬師如来坐像

隣接して穴太薬師堂がある。開基は明らかでないが、多くの礎石が出土したと伝わり、大きな寺院だったようだ。本尊の薬師如来座像は檜の一木造で、平安時代中期の作と考えられ、県有形文化財。本堂の喚鐘は明治41年2月に瑠璃鉄器株式会社の铸造。

昔、瀬古泉地区は瀬古村と泉村に分かれていた。その泉村に茂平という働き者の男がいた。火事場泥棒をした嫌疑で処刑された。その直後に冤罪と判ったので、処刑の中止を伝える役人が急いで駆け付けたが、途中で処刑が終っていた。冤罪を伝えに来た役人は橋の途中から引き返していったので「途中橋」という名が付いたという。



途中橋

白峯龍神社～観音もみじ～多井寺～福泉寺～瀬古泉神社

瀬古泉にある白峯龍神社は集落の中ほどの角地に位置しているが、見過ごしてしまうほどの小さな祠である。観音もみじは、白峯龍神社からは北の方へ少し戻り、周りが開けたところの田畑の一角をフェンスで囲われたところにある。もみじの木はどこまでが根っこで幹がどこからかは曲がりくねって見分けがつかない。真ん中の枯れたところを切ってしまい、かつてのようなボリューム感はなくなってしまった。ほとんど紅葉しないもみじである。東員町指定の天然記念物。そばには古くから観音池があったが、現在、池は埋められている。



白峯龍神社

瀬古泉の多井寺は鎌倉時代初期に書かれた藤原実重の「作善日記」に「多井の観音」と記されている。無住になった時期もあり、村人が観音像を守ってきた。この千手観音菩薩は行



多井寺



福泉寺

基作と伝えられ、地区の人々に大切にお祀りされている。

瀬古泉には笹尾堂福泉寺もある。梵鐘は天保7年(1837)桑名住の広瀬興左衛門藤原政次によって再鑄造されている。瀬古泉のことは82才となる中村誠さんに話しをお伺いした。境内に武芸者であり、教育者だった「大高重義」の石碑と墓がある。

瀬古泉神社は、旧瀬古泉村にあったいくつかの神社が合祀されものである。

明治40年(1907)1月8日には明治政府の神社合祀令により、鳥取山田神社に合祀された。昭和26年(1951)3月15日に鳥取山田神社より旧瀬古泉村にあった全ての神社がこの地に戻されて「瀬古泉神社」となって現在に至っている。



瀬古泉神社

遍崇寺～多奈閑神社～瑞応寺～丸山地蔵堂～大雲寺

次に中上の遍崇寺へ。住職花山孝真師から説明を聞く。境内の経蔵には明治20年(1887)第10世花山大安師が研究資料として購入した明版大蔵経が納められている。開基は行基と言われ、天台宗だったが、明応年間(1492～1500)に花戸城主坂太郎左衛門が戦いに敗れて仏門に入り浄土真宗遍崇寺となった。

次に延喜式内社の多奈閑神社へ。明治40年代に久米村の各社が合祀され、久米神社と称された。参道の坂道の両側には数多くの燈籠が建っている。これは平成5年(1993)から平成22年にかけて、その年に還暦を迎えた人が協力して建立したもので、大晦日30日の夜から翌明け方にかけて一斉に灯が点される。



多奈閑神社

瑞応寺では第13世住職の景山法道師からユーモアある説明を聞いた。当寺は、長深城主富永氏一族の菩提寺である。現存する最古の建築物は鐘楼門で、明治12年11月21日の落成。三重県指定有形文化財の「絹本着色景川和尚像」は明応9年(1500年)の春に描かれたものであるが、傷みから防ぐため現在は一般公開されていない。景川和尚とは当山の初代で明応9年3月1日寂である。御本尊の木造千手観世音菩薩立像は普段は閉扉であるが、今回だけ特別に開扉して頂いた。ここで短めの昼食時間を過ごした。門前の道路際に「瑞応寺の金ぶっさん」と呼ばれる青銅製の如意輪観世音菩薩立像が祀られている。辻内善平作である。



千手観世音菩薩立像

午後は丸山地蔵堂へ。瑞応寺の富永氏ゆかりのお堂で、長深地区の方々の管理。

次の大雲寺で18代のご住職から説明を聞いた。昔は天台宗だったが、明応年間(1492～1500)に真宗高田派となった。寛永12年(1635)桑名藩主松平定綱が当寺に参詣した時に、大運寺の称号を賜った。後、「運」の字を「雲」に改めた。最後にたどり着いた東員駅付近では広いコスモス畑が今が盛りだった。



大雲寺